NPO Srolanh Project

カンボジアの障がいのある子どもたちの「生きる」を支援する。 vol.14

SROLANH NEWS

チョムリアップスオ！～あいさつ～

スロラニュプロジェクト代表 飯塚 由美子

いつもスロラニュプロジェクトを応援していただき、ありがとうございます。

すでに平成30年度も終わり、令和元年がスタートしました。3月にメンバーと定例会を行い、その際、私たちの活動も第3期目に入り、活動の見直しが必要であるとのお話をしました。第1期は「すろまい・こ～ん」としてのボランティア活動。

第2期は、スロラニュ小学校を建設し、学校を起点に救急救命、歯科支援、障がい児支援を開始し、村や学校での活動をできる範囲で行っていた時期。そして、これから第3期に入って、カンボジア王国シェムリアップ州において、アプサラ機構、師範学校、そしてワットボー小学校という州において中心に位置し、役所が認める場所での活動になり、大きな責任と今後シェムリアップ州に影響を与えるかもしれない活動内容になってきました。

メンバーのほとんどが、仕事を持ちながらのスロラニュ活動である為、責任の重さに、精神的に辛い面もありますが、それぞれが生きがいとして、カンボジアの地で活動させていただくことを感謝しつつ、頑張っていこうと思います。

ワットボー小学校での障がい児特別支援と村の現状

モンテッソーリアン 浅原 奈緒子

今回は、ワットボー小学校へ障害児教育を導入するための準備と村の障害児たちの現状把握に絞って活動させていただきました。

ワットボー小学校での障害児教育導入は、キムチェン校長先生との話し合いから始まりました。私たちは、その話し合いで以下のことをキムチェン校長先生にお願いしました。

- 現場の先生に気になる子ども一人を選んでもらい、試験的に3日間療育を行う。
- 一般的な子どもたちの能力を知るために、選んでいただいた子どもの所属するクラスのスクリーニング（簡単な認知検査）を実施する。
- ワットボー小学校の子どもたちの読み書きや計算等の基礎となる能力を調べ、平均値を出すために、小学6年生の１クラスに対して視知覚検査を実施する。

そして最後に、キムチェン校長先生は、将来的に支援クラスを作る構想があるかどうかをお尋ねしました。

キムチェン校長先生は、私たちのお願いをすべて快諾してくださいました。また、将来的に支援クラスを作る構想があると話され、私たちに療育のための教室を提供してくださいました。その教室はど～んと広くて何もなく、時々身体測定で使われているそうですが、日常的には物置がわりに使われているような教室でした。机や椅子も間に合わせのものでしたが、療育ができるスペースをワットボー小学校の中に確保できたということの意味はとても大きく、今後の展開を予感させてくれるものでした。貧困問題が第一で障害児教育については聞く耳をも持っていただけなかった頃から、飯塚先生たちはカンボジアで地道に障害児支援や歯科支援、救急救命等の活動を継続して来られました。その結果が今、どんどんと身を結び始めているのです。話し合いの後、現場の先生に選んでいただいた小学1年生の3人の子どものアセスメント（得意不得意等を調べる）を実施し、その日の活動を終了しました。

ワットボー小学校での2日目は、前日にアセスメントした子どもたちが在籍するクラスでの認知検査と、3人の子どもへの療育を行いました。

3日目は、小学6年生のクラスで視知覚検査を実施しました。この検査は子どもたちに説明することがたくさんありましたが、通訳のパンナさんから担任の先生に趣旨と検査方法を伝えてもらい、担任の先生から子どもたちに説明をしてもらうことでスムーズに検査を進めることができました。学校として授業時間を2時間も費やしてくださったり、担任の先生が検査に意欲的に取り組んでくださったことがとても嬉しかったです。言葉や文化が違うカンボジアでこんなにスムーズに検査ができたのは、キムチェン校長先生のご配慮やパンナさん、担任の先生、そして子どもたちのサポートをしてくださった日本の障害児支援スタッフのお陰だと感謝しています。

ワットボー小学校での活動の前後に、今回が初めての村を訪問しました。映画に出てきそうな、私が今まで見たことがない荒野に住まいが点在する村でした。障害のある可愛い男の子が、愛らしい笑顔で私たちを出迎えてくれました。この3歳の彼は何歳まで生きることができるんだろう。カンボジアでは、貧困や病気への適切な対応が難しい等の理由で、長く生きていくことができない障害のある子どもが多いそうです。私は、どうすれば、愛らしいその笑顔を守っていくお手伝いができるのか。私の頭の中はそのことでいっぱいになりました。

車椅子を届けに行った村もありました。日本で不要になった車椅子を綺麗にして、車椅子が必要な方へ送られている団体から車椅子をいただき、カンボジアの足が不自由な女性の方へ届けました。車椅子の扱い方を説明していると、そこが砂地で一般的な車椅子ではとても力が必要なことがわかりました。それを見て、車椅子を手配してくださった石倉さんが、「砂地でも軽く動くタイヤがあるから、探してみるわ！」と次の支援を考えてくれていました。

今回の活動では、みんな自然と誰かのために体が動いていました。そして、カンボジアで本当に必要な教育や支援はどんなものなのかを考えました。私たちは、もっとカンボジアの現状を知り、カンボジアの方が考えていることや思っていることを理解していくことが必要だと思いました。

次回のカンボジアでの活動までに、今回、ワットボー小学校でさせていただいた検査を評価し、ワットボー小学校での活動に活かしていきたいと思います。そして、今回の活動を振り返り、次回の活動がカンボジアの方々を中心に考えたものとなれるように、日本でしっかりと計画を立てていきたいと思います。

命の授業（救急救命講習 2019年2月）活動報告

救急救命士 髙橋 茂樹

2月23日 PM：ドントロー中学校3年生69人（男子35人女子34人）

2月24日 AM：孤児院センター年長者への指導 メイオウダムくんを中心に、インストラクターとして年長者への指導をしてもらった。指導内容はAEDを取り入れた講習内容で、AEDの操作も難なくこなし、素晴らしい成長を見せてくれた。ただ、彼も2019年12月までに、職を探し退所しなければならないとのことで、インストラクターの認定証を交付しようと考えている。また、孤児院の職員や子供達に指導できるよう、蘇生人形2体とAEDトレーナーを預ける。

2月25日 AM：シェムリアップ師範学校1年生60人 今回も歯科部と協力し、半数の３０名に分かれての指導とした。毎回のことであるが、私の話す言葉を筆記し、実技に関しても迷うことなく実施されていた。最後に、「この講習で一番大切なことは何でしょうか？」と質問したら、女性の学生が手を挙げ、大きな声で、「チューイポーン！」と（叫んで、助けを呼ぶこと）と回答された。私が伝えたかったこと。**”勇気を持って一歩前に進み行動を起こすこと”**この言葉を聞いたときは、鳥肌が立つと同時に、学生に握手を求めありがとう！と感謝したと同時に、疲れも吹っ飛んだ。

2月26日 AM：アプサラ機構職員50人 今回で、5回目となる講習。のべ約230人への指導となる。スタッフの協力のもと、心肺蘇生法や外傷に関する応急処置方法に搬送方法など2時間30分という短い時間の中でギュッと凝縮した講習を実施した。翌日に、通訳から、この活動期間中に、アプサラ職員が仕事中に観光客が倒れたのを発見し、胸骨圧迫をし意識が戻ったという話を聞いた。継続して指導した約230人の受講生が結果を出してくれたことはとても嬉しく思った。修了証をポケットにしまい、事故が発生した際にはどうすればいいか、常に考え仕事に従事されていると思えば、本当にありがたいことだと感謝する。

スロラニュ小学校でのやさしい授業報告　元小学校教諭 須藤 徳子

２月23日（土）運動会終了後、３年生と１年生の授業

最初は、３年生。初めに担任の男性の先生に授業の内容とねらいを説明。カンボジアの２年生の教科書にも載っている学習なので、教科書を見せながら、座標を読み取り形を写すことは、難しいクメール文字の習熟のためにも役立つことを伝える。

・座標の読み取り方を説明し、実際にやってみる。

・見本と同じようにかけたら、色をぬる。

すらすらできる子もいるが、初めての学習のようなので正確にかけずに苦戦する子もいるので日本人スタッフや担任、通訳等の大人が教える。できたら、褒めて、色鉛筆で好きな色を塗るように促す。色鉛筆で色を塗るのはとても楽しそう。

次に、1年生。11月に入学して４か月。数字の学習はどこまで出来るのか担任の女性の先生に確認する。この先生は、昨年２年と３年50人程の複式学級の担任として苦労されていたが、今年は１年生20人ほどの単学級なので、大変落ち着かれていた。10までの数を見ただけで言えるようにする学習をした。沢山の具体物を数える中で、数字を見ただけでその数がイメージできれば、足し算や引き算の計算をする時に役に立つ。ブロックのフラッシュカードを毎日算数の時間の前に続けてやってみて下さい、と担任に伝えた。

２月26日（火）最終日の午前中、２回目の授業

まずは、１年生。線の上をなぞって同じ形をかく学習。これも、形の認識と難しいクメール文字の学習にはなくてはならない学習なので、担任にやり方を説明し、子供たちには担任から説明してもらう。色塗りは、どの子も楽しんで取り組めていた。早くできた子には、くるりと線が交差するなぞりプリントを渡す。全員、交差が出来ていたので、感心した。

次に、３年生。カンボジアでは、九九は2,3,4,5の段を２年生で学習し、6,7,8,9,10の段は３年生で学習するようになっている。そこで、2,3,4,5の段の習熟をねらって、日本から持って来た大きい掛け算カード（フラッシュカード）を担任に見せた。そして、2の段からやってもらった。すると、担任がフラッシュカードを見せて、子供たちに答えを言わせ、次に「誰かやりたい人？」（多分言ったと思う）と次々に子供たちにも前に出てさせていた。みんな、友達がフラッシュカードを見せるので、九九学習を楽しくできた。

また、支援教育の専門家である浅原さんが用意した教材を見せて、支援の必要なＳ君が登校して来たら、こんな風に使ってみて下さいと伝えると、友達にＳ君を呼んでくるように言ってくれたのか、いつの間にかＳ君が来ていた。そして、友達が掛け算の学習をしている間、席に座って課題に取り組むことが出来た。

こちらの意図することを通訳を通してではあるが、瞬時にくみ取り上手に教材を使う大変優秀な先生だと思った。

帰国後、パンナさんから、３年生が掛け算のフラッシュカードを使って学習していることを聞き、大変嬉しく思った。これからは、子供たちと担任が無理なく学習できる教材を厳選し、少しずつ提案していきたい。

2019年２月スロラニュ歯科部活動報告　歯科医師 大森 茂樹

歯科部として11回目の現地活動に参加した。歯科医師１名、学生（娘）１名、サポートとして保育士１名が主なメンバーとして活動した。適宜他部門のメンバーに力を借りて歯科保健啓発活動を行った。歯科部としての活動概要は次の通り。

小学生対象の歯科保健指導：スロラニュ小学校児童　72人／師範学校付属小学校１年生　95人

中学生対象の歯科保健指導：ドントロー中学３年生徒　54人

孤児院入所児童対象の歯科保健指導：入所児童（主に年少者）　8人

学生に対する歯科保健指導：師範学校学生（1年次）　60人

障がい児口腔ケア：デイ・サービス等にて６人／個人宅での歯科啓発（ハブラシ配布）：オートテュン村・バンゴア村

ほぼすべての場所においてパペットを用いて口腔衛生に関する啓発の導入を行った（計９回）。そのうちカンボジア人によるもの２回（デイ・サービス／オートテュン村）、カンボジア人学生との共同実施２回（師範学校）だった。小学校・中学校では歯垢染色を施したうえで全員にハブラシを配付し、ブラッシング指導を行った。その際、手鏡を貸与し、観察を促した。また、今回はハブラシの持ち方を重点ポイントとし、３本の指を主に使ってのペングリップを指導した。

また、ドントロー中学と孤児院では相互に寝かせみがきを行うという試みも行った。中学生に対しては、自分でうまくブラッシングができない人に対して、介助してもらいたいことを伝えた。自分が親になったら子どもの歯の手入れをし、むし歯から歯を守ってほしいことを強く要望した。

師範学校の学生に対しては前回同様歯の生え替わりについて図示したプリントにブラッシング指導手順も記載して配付し、児童に対する指導を学生が中心となって実習してもらう試みを行った。

師範学校の学生は毎年１年次の３月に広島大学のグループに歯科の研修を受けている。我々の指導直後にその研修が実施される予定なので、より理解が深まることが期待できる。将来、赴任先で児童に対する健康教育を行ってほしい旨を伝えた。

支援している障がい児に対しては我々による口腔ケアのほか、母親に実践してもらい、家庭での継続を促した。出会ったときにはブラッシングを行ったことがなかった障がい児が、７歳になり、以前嫌がっていたブラッシングに抵抗することなくリラックスして受け入れてくれていた。母親が日々仕上げみがきを行っている成果であろう。

歯科部としては前回に続き「未来の子どもの歯を守るためにできることを」を活動テーマに掲げて今回の活動に臨んだ。できることをできる人ができる範囲で、というスタンスで、他職種の方にも歯科の支援をバックアップしてもらった。毎回何かしらはじめての取り組みを行うことで変化をつけて、自分のモチベーションにつなげている。うまくいかず不十分な点はあったかもしれないが、予想以上に受け入れてもらえたと感じた。

将来教師になる学生や、将来親になってゆく中学生に、「子どもの歯を守って下さい」と伝え続けることが大切だと考えている。

今後も未来の子どもの歯を守るという観点で活動を継続していきたい。参加メンバーによって活動内容を見直し、計画を立て直しながら。

帰国直前に広島大歯学部の方とお会いし、情報交換をする機会を得た。横のつながりを生かした活動が実施できればと考えている。このような活動の場を与えてもらえていることに感謝して、小さくても新しいチャレンジをし続けていきたい。

私たちの活動にご賛同頂ける方へ協力のお願い

会員の種類	個人	団体
正会員	１口１０００円（月会費）	１口１００００円（月会費）
賛助会員	１口１０００円（年会費）	１口５０００円（年会費）

＊賛助会員（個人）の年会費につきましては３口からお願いします。

振込先のご案内

銀行振込　みなと銀行支店：明舞支店（普）口座名：特定非営利活動法人スロラニュプロジェクト理事長飯塚由美子
口座番号：３８９５４６２

郵便振替　加入者名：特定非営利活動法人スロラニュプロジェクト口座記号番号：００９８０－１－１７２４８０

※恐れ入りますが、手数料についてはご負担をお願いします。

NPO法人スロラニュプロジェクト　〒655-0049 兵庫県神戸市垂水区狩口台４丁目31－505　TEL：090-9982-4032　E-mail：srolanhproject@gmail.com